戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	7689　河川将来像事業													
担当組織	都市整備部				道路河川課							担当	河川担当	
組織コード	H30	20	09	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	03	01	02	02	記入日	平成29年06月09日
	H29	20	09	00		H29	01	08	03	01	02	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	● 対象
分野	02	公園・水辺	○ 対象外
施策	41	水辺環境の整備	

事業期間	平成８年度 ～ 平成３３年度		
根拠法令 通 達 等		関連計画 施政方針	笹目川とことん活用連絡会 荒川クリーンエイド 戸田市第4次総合振興計画（後期）
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	市民		
事業目的	水辺に親しめるより良い河川環境にしていくため、市民、関係団体、国、県、市が連携し、継続的に川を利用するイベントや清掃活動を開催していく。これらの活動を通じ、河川への愛着や興味関心が生まれ、更に河川の環境美化意識が深まり、より良い河川環境を創出することを目的とする。		
事業内容	笹目川とことん活用連絡会、荒川クリーンエイドについては、市民、関係団体、行政との協働事業であり、イベント開催や清掃活動などを支援していく。		
実施主体	□市による単独直営　□委託　（□ｺﾝｻﾙ･財団　□企業　□市民･NPO）　■協働･協力（　市民、団体等　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績			平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
	事 業 内 容		笹目川とことん活用連絡会の支援、荒川クリーンエイ	笹目川とことん活用連絡会の支援、荒川クリーンエイ	笹目川とことん活用連絡会の支援、荒川クリーンエイ	笹目川とことん活用連絡会の支援、荒川クリーンエイ	笹目川とことん活用連絡会の支援、荒川クリーンエイ
	事　業　費		831	1,461	2,223	1,461	1,461
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起　　債	0	0	0	0	0
		そ の 他	0	0	0	0	0
		一般財源	831	1,461	2,223	1,461	1,461
	人　件　費		5,034.81	5,034.81	5,034.81	5,034.81	5,034.81
	投入人員	常勤職員	0.73人	0.73人	0.73人	0.73人	0.73人
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人
	事業費＋人件費		5,866	6,496	7,258	6,496	6,496

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①	笹目川及び荒川でのイベント等の開催回数	回	笹目川とことん活用連絡会、荒川クリーンエイド	2	2	2
				3	2	－
活動②						
						－
成果①	笹目川及び荒川でのイベント等の参加者数	人	笹目川とことん活用連絡会、荒川クリーンエイド	500	500	1,000
				230	1,545	－
成果②						
						－

目標達成状況の分析	
	Ａ：活動・成果ともに達成した。 ＜判断理由＞ 笹目川におけるイベントの内、舟下りをメインとするイベントの開催では、天候にも恵まれ、多くの市民が参加した。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ａ：施策の目標達成に大いに貢献している。
	Ａ	Ａ	Ａ	＜判断理由＞ 河川の利活用・維持管理を推進していく、笹目川とことん連絡活用会やクリーンエイドの活動については、非常に多くの一般市民に参加してもらい、川の環境保全について理解してもらう場となったことなど、施策の目標達成に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ａ：経費の精査が十分になされている。
	Ａ	Ａ	Ａ	＜判断理由＞ 河川の利活用・維持管理を推進していく、笹目川とことん連絡活用会やクリーンエイドの活動については、市民や関係団体と連携しながら取り組んでいるものであり、経費は殆ど生じていないものであるから、経費は適正である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ａ：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	Ａ	Ａ	Ａ	＜判断理由＞ 河川の利活用・維持管理を推進していく、笹目川とことん連絡活用会やクリーンエイドの活動については、市民や関係団体と連携しながら取り組んでいるものであり、連絡会による会議などで、方針を決定したり、イベントの企画などを行っており、事業手法は適正である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：受益・負担は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 河川の利活用・維持管理を推進していく、笹目川とことん連絡活用会やクリーンエイドの活動については、市民や関係団体と連携しながら取り組んでいるものであり、また、イベント等の周知に広報等を活用し、一般市民が参加できる点など、受益・負担については公平である。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし
見直しの効果	特になし

5. 今後の方針

事業の方向性	● １現状で継続　○ ２拡大して継続　○ ３縮小して継続　○ ４他事業と統合　○ ５休止 ○ ６その他見直し　○ 平成３１年度で終了 ○ 平成３０年度で終了 ○ 平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ 笹目川とことん活用連絡会においては、舟下りをメインとするイベントや楽しみながら清掃を行うイベントなどを、市民や関係団体と連携しながら、企画・準備・開催することができ、笹目川への親しみが少しずつ根付いているところである。また、荒川クリーンエイドも関係団体との共同開催で実施するなど、上記同様に、良好な水辺環境を創出・維持するために、継続的に取り組んでいく必要があることから、現状のまま継続していく。
今後の取組方針	笹目川の更なる親しめる環境づくりを目指し、平成29年度から市民や関係団体などと連携しながら進めてきた笹目川とことん活用準備会を、活動笹目川とことん活用連絡会とし、新たな活動をスタートさせており、この連絡会を通じて、今後、イベントの周知方法の向上や新たな取り組みの模索をしていく。

戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	21234　水路維持管理費													
担当組織	都市整備部				道路河川課							担当	河川担当	
組織コード	H30	20	09	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	03	01	05	01	記入日	平成29年06月09日
	H29	20	09	00		H29	01	08	03	01	05	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	● 対象
分野	02	公園・水辺	○ 対象外
施策	41	水辺環境の整備	

事業期間	平成１７年度 ～ 平成３３年度		
根拠法令 通達等		関連計画 施政方針	戸田市第２次都市マスタープラン 清流ルネッサンスⅡ(第二期水環境改善緊急行動計画) 戸田市第4次総合振興計画（後期）
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	市民		
事業目的	市内を流れる水路について、水質改善や水辺環境の保全により、市民が水の恵みを感じながら生活できるような水辺環境を創出し、また、水路の流下機能を確保すると共に、歩行空間としての利用も図られるよう、常に水路を健全な状態に維持することを目的とする。		
事業内容	水質改善の取組みとして、清流ルネッサンスⅡ事業終了時の目標値を引き続き目標として、上戸田川浄化施設の利用や汚泥の浚渫のほか、浄化施設や導水事業による水質改善の状況を把握するため、定期的な水質調査を実施する。 市内の水路については、水路の流下機能を確保すると共に、歩行空間としての利用も図られるよう、定期的な維持管理業務や計画的な修繕を実施し、常に健全な状態とする。		
実施主体	■市による単独直営　□委託　（□3ｾｸ･財団　□企業　□市民･NPO）　□協働･協力（　　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績

		平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事業内容		新曽・笹目・美女木地区などにおける水路維持管理	新曽・笹目・美女木地区などにおける水路維持管理	新曽・笹目・美女木地区などにおける水路維持管理	新曽・笹目・美女木地区などにおける水路維持管理	新曽・笹目・美女木地区などにおける水路維持管理
事業費		26,065	28,883	35,250	28,883	28,883
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	26,065	28,883	35,250	28,883	28,883
人件費		3,241.59	3,241.59	3,241.59	3,241.59	3,241.59
投入人員	常勤職員	0.47人	0.47人	0.47人	0.47人	0.47人
	非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人
事業費＋人件費		29,307	32,125	38,492	32,125	32,125

目標達成状況

	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①	清流ルネッサンスⅡ水質調査	回	年間調査回数	12	12	12
				12	12	－
活動②						
						－
成果①	清流ルネッサンスⅡ水質改善	mg/l	BOD:生物化学的酸素要求量(沖内第3人道橋)	5	5	5
				3	3	－
成果②						
						－

目標達成状況の分析	Ａ：活動・成果ともに達成した。 ＜判断理由＞ 清流ルネッサンスⅡに基づく水質改善については、水質目標値を達成することができた。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：施策の目標達成に貢献している。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 上戸田川浄化施設や荒川からの浄化導水の稼働により、水質改善については、目標を達成している。また、水路の維持管理としては、清掃業務を昨年度は25日実施するなど維持管理することで、施策の目標達成に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：経費は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 荒川からの浄化導水については、稼働に係る経費（電気代、操作員代等）を荒川下流河川事務所が負担している。水路の管理業務や修繕については、県の設計基準や単価、見積書に基づき、適切に積算を実施、競争入札や見積合わせにより、業者を決定しており、経費は適正である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：事業手法は適正な内容である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 水路の管理業務や修繕については、専門的な内容が多くあることから、業者に委託するなどしているが、市民サービスの質を低下させることなく、実施できていることから、事業手法は適正である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：受益・負担は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 水質改善に係る取組みを継続的に実施しており、水質目標値を達成するなど、市民が良好な水辺環境のもと生活ができるようになり、受益・負担は公平である。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし
見直しの効果	特になし

5. 今後の方針

事業の方向性	● １現状で継続　○ ２拡大して継続　○ ３縮小して継続　○ ４他事業と統合　○ ５休止 ○ ６その他見直し　○ 平成３１年度で終了 ○ 平成３０年度で終了 ○ 平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ 水質改善の取組み効果としては、清流ルネッサンスⅡの水質目標値を達成できているが、この目標の達成のためには、下水道整備や浄化槽の適正な維持管理のほか、水質浄化に係るそれぞれの取り組みが必要であることから、現状のまま継続していく。
今後の取組方針	市内を流れる笹目川・菖蒲川・上戸田川の更なる水質改善が図られるよう、今後も引続き、上戸田川浄化施設や浄化導水を利用し、水質状況の把握に努めていく。また、水辺環境の向上に向けて、河川敷の雑木の除去や、汚泥の浚渫などを段階的に実施する。